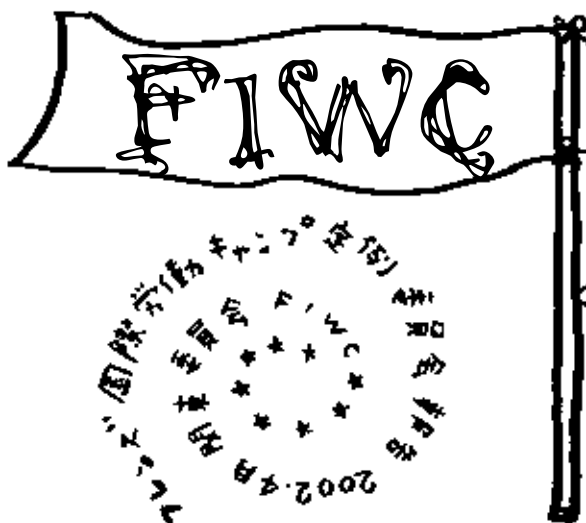




friends
international
work
camps



もくじ

フレンズ国際労働キャンプ
関東委員会
定例委員会報告
2002年4月号

2001年度のまとめ

2001年度活動報告 * * * * * 2

2002年度活動計画 * * * * * 2

友好団体紹介 * * * * * 2

2001年度友好団体活動報告 * 2

FIWC関東委員会50年のあゆみ 3

キャンプリーダーの紹介 * * 4

活動報告 * * * * * 6

中国キャンプ報告 * * * * * 6

友好団体の活動報告 * * * * * 7

ネパールキャンプ報告 * * * * * 8

活動予定 * * * * * 8

耶馬溪キャンプ * * * * * 9

Jimenプロジェクト2002 * * * * * 9

韓国キャンプ * * * * * 10

フィリピンキャンプ * * * * * 11

未来に向けた可能性としてのフィリピン/日下渉 12

会計より * * * * * 14

次回の定例委員会 * * * * * 14

去年一年、国内で色んなイベントを企画したおかげで、各キャンプの横のつながりが出来たように思います。

この資源を活かし、今年度はキャンプの現役メンバーと、OB、OGの人たちがつながるようになればと思います。具体的には、年度末報告会や全生園での花見のようなイベントを今年度は積極的に作っていく予定です。ですので、皆様、ぜひぜひご参加ください。

そのほかにも、今年度から始まったフィリピンの現地駐在員を生かした形のキャンプも実現できればいいな、と思います。

末筆ながら、前回の定例会報告でカンパのお願いをしたところ、年会費の納入も含めて30万円近くのお金が集まりました。カンパを下さった皆様、本当にありがとうございました。FIWC 関東委員会委員長・西尾雄志



いあつて
—今年度の
FIWC関東委員会—



2001年

4月 耶馬溪キャンプ

第一回勉強会「ワークキャンプ
論 前編」 報告：西尾雄志

5月 第二回勉強会「ワークキャンプ
論 後編」 報告：西尾雄志

6月 第三回勉強会「F・W・Cワーク
キャンプの歴史」 報告：阿木
幸男

7月 長島愛生園夏祭り「ちんどん隊」
第四回勉強会「キャンプ中の日
本人のたちふるまいについて」
司会：小林武史

8月 韓国キャンプ

9月 シンポジウム「差別と共生を考
える」開催、講演：森元美代治

10月 第五回勉強会「『差別と共生』
をキーワードにしてワークキャ
ンプのあり方を考える」
司会：中村博志

11月 全生園秋祭り「ちんどん隊」
第六回勉強会「アフガニスタン
の歴史、イスラム教の基礎知識」
報告：高津阿礼、田中祐也

12月 第七回勉強会「集団論」
報告：阿木幸男

2002年

1月 第八回勉強会「ハンセン病の基
礎知識」 報告：松長麻美

2月 フィリピンキャンプ初代現地駐
在員（日下渉）派遣

3月 フィリピンキャンプ下見
韓国キャンプ下見
フリーマーケット（韓国キャン
プメンバー） 明治公園

4月 新入生勧誘、歓迎会

5月 定例会（目黒はり療院、新中野）
ひとり芝居「地面の底が抜けた
んです」開催。
新宿文化センター小ホールにて
定例会（目黒はり療院、新中野）
8月 韓国キャンプ
（総リーダー：佐藤正明）
フィリピンキャンプ
（総リーダー：田中祐也）
その他、韓国キャンプ、フィリピンキャ
ンプ準備（各大学ビラ張り、説明会な
ど）、ネパール、コカナ村キャンプ準備
フリマ、勉強会、目黒地下室週末キャ
ンプ、河合塾コスモゼミ「NPO、N
GOゼミ」(講師：阿木幸男)聴講、ゴー
ルデンウィークキャンプ（F・W・C関
西委員会、交流の家にて）



2001年

4月 耶馬溪キャンプ

第一回勉強会「ワークキャンプ
論 前編」 報告：西尾雄志

5月 第二回勉強会「ワークキャンプ
論 後編」 報告：西尾雄志

6月 第三回勉強会「F・W・Cワーク
キャンプの歴史」 報告：阿木
幸男

7月 長島愛生園夏祭り「ちんどん隊」
第四回勉強会「キャンプ中の日
本人のたちふるまいについて」
司会：小林武史

8月 韓国キャンプ

9月 シンポジウム「差別と共生を考
える」開催、講演：森元美代治

10月 第五回勉強会「『差別と共生』
をキーワードにしてワークキャ
ンプのあり方を考える」
司会：中村博志

11月 全生園秋祭り「ちんどん隊」
第六回勉強会「アフガニスタン
の歴史、イスラム教の基礎知識」
報告：高津阿礼、田中祐也

12月 第七回勉強会「集団論」
報告：阿木幸男

2002年

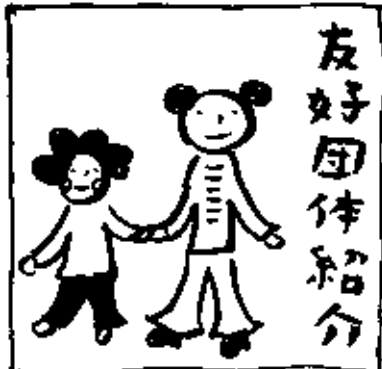
1月 第八回勉強会「ハンセン病の基
礎知識」 報告：松長麻美

2月 フィリピンキャンプ初代現地駐
在員（日下渉）派遣

3月 フィリピンキャンプ下見
韓国キャンプ下見
フリーマーケット（韓国キャン
プメンバー） 明治公園

4月 新入生勧誘、歓迎会

5月 定例会（目黒はり療院、新中野）
ひとり芝居「地面の底が抜けた
んです」開催。
新宿文化センター小ホールにて
定例会（目黒はり療院、新中野）
8月 韓国キャンプ
（総リーダー：佐藤正明）
フィリピンキャンプ
（総リーダー：田中祐也）
その他、韓国キャンプ、フィリピンキャ
ンプ準備（各大学ビラ張り、説明会な
ど）、ネパール、コカナ村キャンプ準備
フリマ、勉強会、目黒地下室週末キャ
ンプ、河合塾コスモゼミ「NPO、N
GOゼミ」(講師：阿木幸男)聴講、ゴー
ルデンウィークキャンプ（F・W・C関
西委員会、交流の家にて）



SCJ日本本部

ネパール、インドなどでキャンプを開
催するほか、世界中の支部が主催する
国際キャンプを中心に活動。平和追求
を主なテーマとする。

GOOD!

(The Global Organization of
Dreamers)

2001年設立。代表：磯田浩司。不
登校やヒキコモリを経験した若者、社
会人、など様々な人を対象にワーク
キャンプを開催。これまでに、タイや



(F・W・C関東と関係の深いものを掲載)
2001年

5月 リーダーシップトレーニング
キャンプ、山梨（SCJ）

6月 フリマ開催（バンングラキャン
パー有志）代々木公園

8月 山梨小杉農場キャンプ（SCJ）
浜松キャンプ（SCJ）
韓国キャンプ（F・W・C関西）
韓国キャンプ（good!）
バンングラキャンプ（ベラ）
フリマ開催（バンングラキャン
パー有志）新宿野村ビル
12月 年末キャンプ 奈良「交流の家」
（F・W・C関西）

9月

10月

11月



ネパールキャンプ（SCJ-Japan）では、知的障害をもつ
こどもたちのための学校を建設。（報告は8ページ）

韓国、スリランカ、国内では大阪金ヶ
先などでキャンプを開催。
2001年設立。ベラとはベンガル
語で小船の意味。これまでバンングラデ
シュで2回キャンプを開催。
2002年
2月 中国キャンプ（F・W・C関西）
ネパールキャンプ（SCJ）
バンングラキャンプ（ベラ）
インドキャンプ（SCJ）
スリランカキャンプ（good!）
フリマ開催（バンングラキャン
パー有志）新宿中央公園
フリマ開催（ネパールキャン
パー有志）明治公園
金ヶ先キャンプ（good!）
2002年
2月 中国キャンプ（F・W・C関西）
ネパールキャンプ（SCJ）
バンングラキャンプ（ベラ）
インドキャンプ（SCJ）
スリランカキャンプ（good!）
フリマ開催（バンングラキャン
パー有志）新宿野村ビル
フリマ開催（韓国キャンパー有
志）明治公園
静岡袋井牧場キャンプ（good!
d!）



1974 年「御殿場コロニー」

韓国、渋川、北海道キャンプが活発化

1979 年 忠南大学にジョナフェ（助癒会）結成

1981 年 北海道釧路北方鶴居村、阿寒学園村キャンプ

1986 年 韓国外語大学にてハナフェ結成

日本側は関東委員会主催でハナフェとジョナフェの両サークルと
日韓合同キャンプを、韓国のハンセン病の定着村にて行なう

1990 年 ハナフェと関東委員会主催で日韓合同キャンプ開催（奥村田起正）

1991 年 日韓合同キャンプ（稲葉充利）

1992 年 日韓合同キャンプ（須崎弘之）

1993 年 日韓合同キャンプ（坂井領）

1994 年 日韓合同キャンプ（藤森豊）

1994 年 関東委員会主催にてフィリピンキャンプ創設（マニラ郊外のハン
セン病回復患者が多く住む村タラ村にて）

1995 年 日韓合同キャンプ（三村（李）玲子）

1995 年 フィリピンキャンプ（ルソン島カローカン市）（内田豪）

1996 年 日韓合同キャンプ（江口善明）

1996 年 フィリピンキャンプ（ルソン島北部パンガシナン州）（西尾雄志）

1997 年「らい予防法廃止 1 周年記念フォーラム」開催（九段会館）

1997 年 日韓合同キャンプ（片山裕子）

1997 年 フィリピンキャンプ（ルソン島北部パンガシナン州）（中村博志）

1998 年 日韓合同キャンプ（土門稔）

1998 年 フィリピンキャンプ（レイテ島）（西尾雄志）

1999 年 フィリピンキャンプ（レイテ島）（齊藤謙）

2000 年 フィリピンキャンプ（レイテ島）（中村博志）

2001 年 フィリピンキャンプ（レイテ島）（近藤剛史）

2001 年 FIWC 関東委員会主催韓国キャンプ 3 年ぶりに復活

（ ）カッコ内の人名は各キャンプの総リーダー

1990 年代後半

SCI-Japan、ベラ、good! などの他団体とキャンパーの交流など積
極的な関係始まる。

1998、1999、2001 年バンガラキャンプ開催（主催：SCI-Japan）

2000、2002 年ネパールキャンプ開催（主催：SCI-Japan）

2001 年バンガラキャンプ開催（主催：ベラ）

2001 年韓国キャンプ、タイキャンプ、大阪釜ヶ崎先キャンプ開催（主
催：good!）

〔参考文献〕

大津光男（普連土学園事務長）「国際ワークキャンプの側面から見た戦後日
本におけるアメリカン・フレンズ奉仕団の活動」

FIWC 関東委員会「1995 年フィリピンキャンプパンフレット」

尾形修一「思いでは空に」NK 企画印刷、1997 年

1950 年代

1952 年アメリカフレンズ奉仕団（AFSC）より FIWC 独立

戦災孤児を対象とした孤児収容施設、売春婦更正施設、結核療養
施設、精神薄弱者施設などでの建設、および整備活動…ホザナ園、
ベスタホーム、信愛病院、愛隣園

1960 年代前半

ハンセン病関連施設（多磨全生園、御殿場駿河台ホームなど）、身
体障害者施設（緑成会整育園、秋津療育園、稲荷山療育園など）で、
年 5 ～ 6 回のワークキャンプの開催。首都圏近郊での母子寮、父
子寮での週末キャンプ、軽井沢援農キャンプ、立川米軍キャンプ
跡地での花植えキャンプ。1964 年パラリンピック東京大会ボラン
ティア。フレンズジュニアワークキャンプ（FJWC）結成。

1965 年 千葉県館山「かたに婦人の村」ワークキャンプ 道路整備

「神山復生病院」ワークキャンプ 溝掘り

「神話学園」竹藪整地

ベスタ・ホーム・ワークキャンプ

宇都宮、養護施設「普恵園」

平塚、神話学園

草津ハンセン病療養施設 夏季ロングワークキャンプ

1966 年「高橋児童神愛館」春季ロングワークキャンプ「スラムと児童問題」

「御殿場コロニー」春季セミロングワークキャンプ

「大洋社大森寮」（母子寮）セミロングキャンプ「スラム問題」

「天使園」（山梨、養護施設）ワークキャンプ

「塩崎荘」（江東区深川、宿泊提供施設）ワークキャンプ

「本木隣保館」・「神隣館」ワークキャンプ「スラム問題」

1967 年「家庭学校」（養護施設）ワークキャンプ「児童問題」

「高橋神愛児童館」ワークキャンプ「児童問題」

「若葉寮」（養護施設）ワークキャンプ「児童問題」

「整育園」（肢体不自由児童施設）ワークキャンプ「児童問題」

「北軽井沢開拓農村」援農キャンプ「農村問題」

「塩崎荘」キャンプ

1968 年「御殿場コロニー」（知的障害者施設）ワークキャンプ

「ベスタ・ホーム」ロングキャンプ

生長の家「神の国寮」（江東区深川）キャンプ

1969 年 ディスカッションキャンプ

「渋川青年の家」建設キャンプ

1972 年 群馬県渋川にて重度身体障害者施設建設の基礎工事キャンプ

（1972 年完成、「梁山泊」と名称）

フィリピンキャンプ 総リーダー

田中祐也 (たなか・ゆうや)

フィリピン人との心の通い合いにかけてはピカイチです。より深いことがフィリピン人と話せるように現在タガログ語の勉強中です。強力スタッフに支えられ、今回のワークキャンプをきっかけに、フィリピンを身近に感じる人が増えるよう精一杯努めます。まずはそこから入って、視野を一緒に広げていきましょうね。

フィリピン キャンプ



フィリピンキャンプ ワークリーダー

佐野一矢 (さの・いちや)

今度のフィリピンワークキャンプでワークリーダーを担当します佐野一矢 (いちや) です。今度のキャンプではこれまで以上に現地の人たちとの交流を深めていきたいと思っています。

キャンパーと村人が互いに協力し合いながら行うワークに加え、彼らとの交流イベントを主催しようと考えています。総リーダーの祐也をはじめ、生活全般担当の阿礼 (高津) そして会計の垂矢子 (永井) と、とてもにぎやかで且つ真面目な強力スタッフがいるのでとても心強いです。充実したワーク活動はもちろん、にぎやかで楽しいキャンプになると確信しています。



フィリピンキャンプ 会計

永井垂矢子 (ながい・あやこ)

はじめまして、次回フィリピン・キャンプのスタッフとして会計を担当させていただきます 永井垂矢子と申します。歴史という過去を乗り越えていけるような「関係」を私達世代が自らの行動によって実感できるワークとしていきたいように思います。そして、フィリピン・ワークを通じて、参加される皆さんと共に実りある思い出や絆を築いていけたら幸いです。どうぞ、至らない点も多いとは思いますが、皆さんの御協力を糧にして頑張っていく所存ですので、よろしくお願い致します。

フィリピンキャンプ 生活リーダー

高津阿礼 (たかつ・あれい)

生活全般担当の高津阿礼です。現在日本女子大学教育学科の4年です。2000年夏のフィリピンキャンプに参加して以来、次回で3回目のキャンプに、4回目の訪問になります。

フィリピンでの生活は、もちろん日本のそれとは異なります。特にトイレ。女性にとっては2番目に重要な問題です。(1番はそりややっぱり、ふふふ) キャンプ中、しばしば頭を悩ませるのが、トイレが詰まってしまうこと。こうなった時は、水を勢いよく流すしか、覚悟を決めて手をつ込むしか解決策はないのですが、でもどんな詰まりでも、頑張れば直るものなんですね。

というわけで、私の役割はフィリピンの生活環境に馴染めない日本人キャンパー、水を使いすぎる日本人キャンパーをやさしく見守ることです。

暴走するリーダー祐也、それを止める政策秘書の一矢、通訳兼事務処理係りのぬけさん、超緊縮財政の垂矢子、そして愛嬌担当の私。2002夏フィリピンキャンプ、きっと印象深いものになるでしょう。。。

応援してくださっている方々、ありがとうございます。



現地 駐在員

フィリピン現地スタッフ

日下 渉 (くさか・わたる)

現 24 歳。次のフィリピン独立記念日に 25 歳になる予定。これは運命なのだろうか。早稲田を卒業後、九大の大学院に所属し、現在フィリピンに留学中。大学一年の時にフィリピンに行き、説明しきれないモヤモヤした悩みを抱え、また現地の人のやさしさに魅せられ、フィリピンのことを勉強し始める。一応専攻は、政治学。ごく普通のありふれたおっちゃんやおばちゃんの生きる現実から、フィリピンを理解できないか悪戦苦闘中。人々が生きていく上で大切にしていることを理解していきたい。酒、音楽 (抵抗の音楽、民衆の唄) をこよなく愛する。彼女は日本人です。





韓国キャンプ 総リーダー

佐藤正明 (さとう・まさあき)

私の FIWC との関わりの始まりは 2001 年韓国キャンプのピラを見た知人からのメールでした。当時、韓国人の友人がおり、その友人を訪ね韓国に旅行に行った際にさらに多くの友人ができたところで、韓国に興味を持っていました。

キャンプに参加した動機というのも、韓国に行け、韓国とかかわりのある仲間ができるからという事でした。はじめてのキャンプまでにハンセン病についての基礎知識は得ましたが、実状の把握や日本での歴史というものは勉強会等を通して、今年に入ってから学びました。また、この4月にはじめて多磨全生園を訪れ、森元美代治さんと直接お話ができた事はハンセン病に関する理解が一層深まるものとなり、今回の韓国キャンプにおいて、ハンセン病に関する諸問題の解決を目指したいと強く思うようになりました。

私の個人的な専門は造園学であり、人と自然、主に植物との接点を考える学問です。これには自然を知ることに加え、人間を知ることが非常に重要で、FIWC の活動を通じ、自分の世界を拡げるとともに、多くの人と出会い、自分の専門に活かしていきたいと思います。分野として樹木学、都市計画学、経済学、経営学、地理学などに興味があります。

まずは、今年の韓国キャンプの成功に向け努力していきたいと思っています。今後もよろしくお願い致します。

韓国 キャンプ

韓国キャンプ サブリーダー

Jimen プロジェクト 2002 会計

松長麻美 (まつなが・あさみ)



松長麻美といいます。パンダ大好き 19 歳。東京都立保健科学大学 2 年で、看護学を専攻しています。昨年の韓国キャンプに初めて参加し、今年はスタッフとして準備にとりかかっています。今年のキャンプが参加者全員にとって、もちろん私自身にとって、そしてワーク地の方にとって有意義なものになるよう、その外枠となるキャンプ環境がしっかり作れたらいいななんて考えています。また、

以前からハンセン病問題には関心があり、その縁(?)か、一人芝居プロジェクトの会計もしています。個人的な事をいうと、特技は水泳、趣味は山登り、本読み、音楽聴き、旅(大きな物から小さな物まで)、ってな感じです。あと特徴は、背が高い、体がかたい、です。これでもういつでも私を判別できますね。そういう事なので、見かけたら声かけてやって下さい。これからもどうぞよろしく。



Jimen プロジェクト 2002

リーダー

笠眉彦 (りゅう・まゆひこ)

1960 年代に福岡市(博多)で生まれる、体重 3700 グラム。牡牛座、RH+ の O 型。

好きなモノまたは大切なコト：正直

なこころ、ぼーっとできる時間、南の島、波に浮かぶコト、(かなり主観による)気持ちいい音、かわいい(ほとんど主観!)女の子、だしのきいたみそ汁・等々
プロフィールを紹介しろといわれたので、脈絡もなく考えてみましたが、考えれば考えるほどなんとくだらないこと!自分がいかにダメな奴か、そしてないものねだりのタダのオヤジかを図らずも証明することになりました。大多数のメンバーとは違い、キャンパー出身ではありませんが、ひょんな事で長島愛生園の夏まつりにチンドン隊として参加した事から、FIWC での出会いに恵まれ、今回、結純子さんのひとり芝居公演の担当をやらせていただいています。

これからもチンドンや文化支援活動には時間の許す限りつきあっていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

昨今は学生メンバーからのキャンプへのお誘いが、うれしくもあり、おそろしくもあり・・・



FIWC 関東

FIWC 関東委員会・委員長

西尾雄志 (にしお・たけし)

1974 年 5 月 18 日生まれ。今年で FIWC に関わって 8 年目になります。去年から関東委員会の委員長をやっています。今年はフィリピン、韓国以外でのワークキャンプを企画したいのですが、何

かと忙しく、なかなか準備が進みません。特に委員長の仕事は何かと重なり、先月までは目をまわしている状態でしたが、今月は気分も悪くなり、戻しているような状態です。去年までは、「かわいい女の子の副委員長が欲しい」などと言っている余裕がありましたが、今年はもうそんな余裕はありません。人間だったら何でもいいので、副委員長募集です! ついでに定例会報告のレイアウトをしてくれる人も募集します! ボランティア精神に満ちあふれる人求む!





年度報告 報告3月24日

早稲田大学学生会館

3月24日に早稲田大学学生会館にてF-IWC関東委員会の年度末報告会を行いました。

当日は報告会と座談会を行いました。座談会では、F-IWC関東委員会の歴史を50年前までさかのぼり、各時期のリーダー的な存在の人（菊谷節夫、森元美代治、阿木幸男、平野敏彦、坂井領、西尾雄志）に当時の活動の状況を話してもらいました。各時期の様々な活動が明らかになるとともに、F-IWC関東委員会はあいも変わらず昔から、女性に弱い団体である事が判明しました。昔の話を聞いていて気がついたのですが、今年はF-IWCがAFSCから独立して、ちょうど50周年の年です。次回は関西委員会、広島委員会、東海委員会の人も呼んで、F-IWC誕生50周年記念大会でもしたいものです。

内容

F-IWC関東委員会、友好団体2001年活動報告、2002年活動計画、友好団体紹介、F-IWC関東委員会カンパ状況、中国キャンプ報告（F-IWC関西委員会主催）、フィリピンキャンプ下見報告、韓国キャンプ下見報告、一人芝居準備状況

座談会「F-IWC関東委員会50年の歴史とハンセン病との関わり」
座談会ハナラー：森元美代治、阿木幸男、菊谷節夫、平野敏彦、坂井領、中村博志、司会：西尾雄志

◎西尾雄志

全生園花見報告 4月7日 多磨全生園

4月7日に菊谷さんの呼びかけで全生園で花見が行われました。桜はもうとつくに散っていました。多くの世代の人が集い大変盛況でした。当日は森元さんのガイドでハンセン病の資料館の見学も行われました。ベラメーバーの出席も多く、若者にとってハンセン病の歴史を知りたいきっかけにもなったと思います。桜がない分、たくさんのご馳走やお酒を楽しみました。F-IWC関東委員会は女性に弱いだけでなく、お酒にも弱い団体である事が判明しました。

新入生 勧誘状況

新入生を対象にF-IWC関東委員会に勧誘しようともくろんでいましたが、読みが甘く、現在のところあまり人が集まっています。当初、新入生の勧誘は早稲田大学を中心に行なっていました。早稲田以外でもやったほうがいい、という意見もありました。そこで体制を整え、再度早稲田以外にも含めて新歓をやろうと思います。ことはちようど、韓国とフィリピンが夏にキャンプを開催するので、韓国キャンプとフィリピンキャンプのビラを同時にはって、新入生を勧誘しようと思います。対象としては、4月の新歓時期にあぶれてしまった5月病の人がねらい目だと思っています。ということでも5月のゴールデンウィーク明けごろから各大学でビラ貼りを決行したいと思っています。各大学に通う皆様、ぜひ協力してください。

◎西尾雄志



2月19日から3月2日にかけて、F-IWC関西委員会の主催で中国の広州から90km離れたところにあるヤンケン村にて、韓国のK-IWCPと一緒にワークキャンプが開催されました。概要は以下のとおりです（関西委員会制作中国キャンプパンフより転載）。

◎西尾雄志



中国キャンプの生い立ち

今回で2回目の中国キャンプになりましたが、その歴史をたどると1984年にさかのぼります。私たちは1973年から去年の夏まで継続して韓国の忠南大学のサークル助産会（シヨナヘ）と合同でハンセン病快復者定着村にてワークキャンプを行っているの



言葉はわからなくても茶話会で村のおばあちゃんと仲良くなった。

ですが、1984年当時のシヨナヘの代表、ファン・ユンギョが「韓国の定着村も豊かになってきて、今後、韓国内での仕事は少なくなっていくだろう。日韓合同で他のアジアの国へ応援に行こう。」と夢を語りました。

以来15年たった去年2001年、2月にシヨナヘのOB、カン・サンミンが新たなワークキャンプ団体、K-IWCP (Korea International Work Camp For Peace) を立ち上げ、F-IWC関西委員会と合同で中国にてワークキャンプを行うことになりました。

中国ハンセン病事情

1950年から2000年にかけて全中国において50万人のハンセン病患者が見つかった。中国31省56民族すべてにハンセン病患者は存在する。

患者の分布を見ると、中国東部と南部が1番多く、続いて中部、その次に西部が多く、北部にはほとんど存在していない。省で言うと広東省が1番多い。

現在まで40数万人の治療が終了した。この50年間で見つかったハンセン病患者の90%は快復したが、まだ6000人が治療されず、家で誰にも見られないような所にかくされていたり、病院に入院したりしている。

一般に中国の定着村政策は1958年に政府の力によって特に法律があったわけでもないが治療のために行われた。今では全中国に800ヶ所の定着村が存在する。ヤンケン村がある広東省にはヤンケン村を合わせて63ヶ所の定着村が存在し、4000人の快復者が生活している。

ヤンケン村について

広州中心地から90km離れた地点に存在している。

村は1957年ハンセン病治療のために政府の力によって成立した。当時は4000人の人々が強制収容された。

現在43人のハンセン病快復者が生活している。政府から1ヶ月につき1人



ワーク中の休憩時間はカンコクフードのおやつ。ときどきビールも。



1200元の資金援助を受けている。ただし、政府が以前行った調査の際、村の人口は37人と調査されたため、残りの6人にはいまだ資金援助がなされていない。

その6人にはHANDAからの資金援助、または村で飼っている鶏を売却することによって補われている。

村の食事は朝9時と夕方5時の1日2食である。

(2001年中国キャンプ時に行った調査に基づく)

関係している団体

KIWCP

Korea International Work Camp For Peace (KIWC) は1999年に韓国大田市にある忠南大学のサークル助成会(ジョナヘ)のOBであるカニンサンミン氏を中心として設立された非営利組織(NPO)。

主たる目的は「ワークキャンプという独自の方法を通じて、若者達の文化交流と奉仕精神を育成し、ワークキャンプ精神を広報、拡大し、ワークキャンプを活性化する」としている。また、ワー

クキャンプをする団体を支援すること、もその目的としている。

HANDA (ハンダ)

HANDAは1996年にハンセン病問題に直面する人々を始めあらゆる人類における尊厳を促進する非政府組織(NGO)として設立された。

HANDAという名前は、ハンセン病の病原菌を発見したハンセン医師と、ハンセン病問題に一生を注いだダミアン神父の二人の名前をとってつけられた。HANDAは世界30ヶ国において20万人の会員をほこるIDEA (The International Association for Integration, Dignity & Economic Advancement) の支部である。

中国においてハンセン病であるというだけで差別されている人々により良き生を見出す機会、きっかけを作



キャンプ最終日は不自由な体をおして見送ってくれた人もいた

ることや、社会から隔離されたハンセン病快復者定着村で生活する高齢世代の人々の生活の質を改善するために活動している。具体的には家屋の修繕活動、自活生活の促進活動、村に住む青少年に対する奨学金事業を行っている。前回の我々の活動もHANDAの活動の一環として行われた。



静岡袋井牧場
キャンプ

(6000人)

3月24日〜3月31日

FIWC関東委員会と友好関係にあるgood!の主催で、静岡県の袋井市にあるデンマーク牧場でキャンプが行われました。FIWCから西尾も参加しました。デンマーク牧場では、ヒキコモリや心の傷を負った若者が、動物の世話をしながら共同生活をしています。キャンプ期間中は、春休みで生徒達はいませんが、代わりに牛、

馬、やぎ、ニワトリなどたくさん動物がいました。毎朝6時から、牛のふん掃除や乳搾り、えさやり、鶏が産んだ卵の収集、などたくさんワークをさせてもらいました。デンマーク牧場では毎日キャンパーに牧場の牛乳がふるまわれ、1日1人あたり平均1リットルの牛乳を消費しました。最終日には、牧場で育てた牛も食べました。Good!では夏に、カンボジアでのワークキャンプも企画しているそうです。FIWCとはまた違った雰囲気気のキャンプなので、興味のある人は行ってみよう!!

◎good! 東京オフィス

<http://www.xdslne.jp/y/isk/>



ネパールでトリをシメました。
ネパールキャンプ報告は次のページです。



リーダー 小野浩平
 前回（2000年10月、リーダー宮本久美子氏）に引き続き、2002年の2月19日から3月3日にかけて、首都カトマンズの郊外にあるティミという町で、知的障害を持つ子供たちのための学校の建設を手伝ってきました。トスコンサとはティミの現地語（ネパール語）で「美味しい」を意味し、今回のプロジェクトの名称としました。学校には関東、関西、韓国、ネパール全土から合計16名のボランティアが集まり、地元の方と共に生活しながら、教



これが建設を手伝ってきた学校です
 この写真はキャンプ後に撮影

室の壁となるレンガを積んだり、花壇のための土を運んだりといった作業をしました。キャンプ中、学校には子供たちが通っていたので、参加者は学校に通う子供たちと交流があり、よい励ましとなりました。今回のキャンプでは、前回完成した1階の教室の上に、3つの教室とその屋根を2階に完成させたのですが、2階に上がるための階段が、資金不足のためにまだ完成していません。そのため2階に教室はあっても、今はまだ上がれないという状態です。建設作業の他にも、キャンプ地にゲストを招いて、ネパールの障害児問題や女性問題、ネパールのNGOについてのレクチャーを受けること



教室風景



ができました。それがきっかけで、参加者たちは、お互いの文化や社会問題をシェアし合いだし、充実した交流を持つことができたようです。
 小野浩平



知的障害をもった子供たちとリハビリ大会

講師：阿木幸男
 本年度も、河合塾のコスモで「NPO／NGOゼミ」が開催されます。河合塾生以外も参加自由ですので、ふるって参加して下さい。時間は毎週金曜日17:00～18:30、場所は千駄ヶ谷の河合塾コスモ校です。5月までの予定は以下のとおりです。
 4月19日 参加者の自己紹介、ゼミの予定確認、NPO、NGOの意義と現状の説明。
 4月26日 「カンボジアレポート」
 3月12日～21日、コスモ生、河合塾生、大学生、河合塾講師がカンボジア・プノンペン州にある「カンボジア日本友好学園」を訪れた。全国の河合塾校舎で集めたボールペン、鉛筆などの文房具をプレゼントし、先生、生徒が交流した。その模様をとったビデオを見な

「河合塾ゼミ」
 「NPO／NGOゼミ」
 「カンボジアレポート」



がら、ツアー参加者に体験談を話してもらいます。話し手：伊藤千枝（津田塾大3年）、高橋建吉（明治学院1年）、竹村彩（学習院大1年）
 5月10日 「ボランティアグループ、フレンズ国際労働キャンプ（FIRC）の活動レポート」
 FIRCやその他の団体に参加した学生の体験レポート。ハンセン病、フィリピン、の農村、ネパールの障害をもつ子供達の通う学校の建設、バングラデシュの農村、中国のハンセン病回復患者の人が暮らす村、などのワークキャンプに参加する大学生の「実感」に基づくトークを通して「異文化交流」「国際協力」「平和」について話し合います。話し手：西尾雄志（FIRC関東委員会委員長、早稲田大学大学院）、高津阿礼（日本女子大4年）、伊藤祥江（東京女子大学大学院）、中村博志（FIRC関東委員会広報部長、早稲田大学大学院）
 5月17日 「同時多発テロ事件、報復戦争、非暴力で平和を実現しようとする「非暴力平和隊」の活動と非暴力的なライフスタイル
 ゲスト：大畑豊さん（非暴力平和隊日本サポーターグループ共同代表、アメリカ、オーストラリア、インド、スリランカ、で非暴力平和活動に参加。良心的軍事費不払いを実践）
 中村博志

シンポジウム

「非暴力の道」
「行動について考える」
「カンボジア教育支援基金」

4月20日に阿木さんのシンポジウムが行われます。内容 詳細は以下のとおり。

日時：4月20日（土）18:30～21:00
（8:00開場）

18:30～19:30 ガンジの「塩の行進」、キング牧師の「人種差別反対運動」における徹底した非暴力行動の根底にあるもの

19:45～21:00 阿波根の「米軍基地反対・非暴力行動」とポルポトによる過酷な暴力の下に生き、「平和のための教育」という非暴力の道を歩く「コン・ポーン」の生き方

話し手：阿木幸男（「カンボジア教育支援基金」代表、河合塾講師、予備校教師の会、非暴力トレーニング・ファシリテーター）

参加費：500円

会場：代々木オリンピックセンター、センター棟513号室（小田急線「参宮橋」下車、徒歩5分、駅前に案内図あり）
（カンボジア教育支援基金）



BBQ

大会



4月27日

ベラメンバー、フイリピンキャンパーを中心にBBQ大会をします。日時は、4月27日、場所は南武線稲城長沼駅を予定。詳細はお問い合わせください。差し入れ歓迎!!

（西尾雄志）

ゴールデンウィーク カマ小屋キャンプ （F-WC関西）

5月3日～4日

ゴールデンウィークに、奈良の交流の家でキャンプをします。ワーク内容は、交流の家の前にあるカマ小屋の補修です。関西委員会ではこのキャンプで新人キャンパーを対象としたオリエンテーションをする予定です。宿泊費用は交流の家に泊る3000円。キャンプアウト後も連休が残っているので、関西観光も出来ます。

（交流の家）

（青山哲也）

耶馬溪への行き方



東京（羽田）→福岡 90min, (定)¥31,000
→福岡空港 →日田/バスターミナル (80～120分 ¥1,750) →中津 (中津行・最終16:35) (45min, ¥950)



東京 →小倉 290min, のぞみ(定)¥23130
→小倉 (JR日豊本線) (90min, ¥2,020)
→中津 (日田行・最終16:00) (60min, ¥1,050)

どちらも 特急バス利用の場合「裏耶馬溪入口」各停のバス利用の場合「下郷」バス停で下車。バス降車後、電話してください。



5月3日～6日

今年も大分の耶馬溪でキャンプをします。耶馬溪の大自然の中、一緒に農作業をして汗を流しましょう！シカ肉、イノシシ鍋を着て酒を飲みましょう！耶馬溪の星空の下みんなで語りあい、恋をしましょう！興味のある方、詳しく知りたい方は以下の連絡先まで。

（関東・藤沢真人）

（関西・福田マヤ）



5月31日19時開演 新宿文化センター

昨春秋、F-WC関西委員会が主催した大阪公演を皮切りに、各地で公演されているひとり芝居「地面の底がめけたんです」の東京公演を成功させるため、準備が進んでいます。

3月には「チラシつくり隊」のメンバーが精力を挙げて、チヨ好評のチラシやチケットの制作を終えました。現在は、当日配布するパンフレットのために「パンフレット隊」がもともと動き出しました。また、4月には結さんの稽古場見学の訪問も行い、プロジェクトメンバー、気合タツプリになりました。チケットの売れ行きも好調です。これから行く方は早めにチケットを手に入ってください。そうしないと無くなってしまうですよ！

（茂木亮）

チケットの申し込みはモグネット
<http://www.mognet.org/>

または東京音楽文化センターまで。

Jimenプロジェクト 2002 ひとり芝居に向けて...

僕とハンセン病の関わりは、今までのところまだそれほど長くもなく、深くもないといえるだろう。もし2年前の夏、長島愛生園でF-WCと再会していなければ、これほど積極的に関わりを持つことはなかったのかもしれない。

もともとハンセン病問題に興味があつて愛生園を訪れたわけではなかった。実際そこで、僕はひどく個人的な経験をしたのだともいえる。

しかし、2年たった今でも、その経験を語りつくすことばをさがし続けている。

確かに、チンドン隊で園のみなさんに音をお届けするはずが、はるかに大きなお返しをいただいて帰ってきたということだ。

去年の5月、日本中が「ハンセン病国賠訴訟」に揺れていたとき、僕は、友人でF-WC関西委員会のメンバーでもある茂木亮につきあつて、何度かデモや集会に参加した。彼はこの「国賠訴訟騒動」の一部始終を、患者・元患者のみなさんに最も近い視点から記録に残そうとしていた。「控訴か？、断念か？」刻々と移り変わる緊迫した状況の中、写真を撮り、インタビューを続けた。この取材は、後日「むすび新聞」として結果することになるのだが、その編集後記のおわりに、僕はこう結んでいる。

「——われわれは患者・元患者のみなさんに、未来への確かな意思を確認する機会を与えられ、今また試されているのです。忘れてはいけません。すべては始まったばかりなのです。」

ご存知のとおり「国賠訴訟」は原告団勝利のうちに幕を閉じ、また夏はめぐって、僕はふたたびチンドン隊の一員として愛生園を訪れることになった。

あたたかい気持ちは1年前と変わらず、こころを満たしていた。しかし同時に、どこか違和感を否定できない自分がいた。

『むすび新聞を作ったり、たまに愛生園や、(その頃は森元美代治さんとも知り合っていたから)多磨全生園に行くだけで、何かしらの責任を果たした気になっていたのか?』

『すべては始まったばかり』と言い放ちながら、これといって何もできない自分の歯がゆさに引かかっていたのだ。

ひとり芝居の存在を知ったのは、ちょうどそんな頃だった。

「ハンセン病の人が書いたエッセイを元にした芝居をやるうとしている人があるらしいよ」

初演直前のリハーサルにうかがって接したそれは、驚くほど簡単な装置と、最低限のスタッフ、そしてそれからは決して想像のできない高いクオリティを備えた特異なひとり芝居だった。膨大なセリフを憶えるだけでも大

変な俳優自身が、脚本を書いていることも驚かされた。

結純子さんは「地面の底がぬけたんです」に魅了されている。そう感じた。そして僕は、純子さんを語り部として、原作者の藤本としさんに魅了されていた。

思えばこのとき、今回の新宿公演はスタートしていたのだ。

現代のハンセン病問題は、医療の衣を纏った差別問題である。医学界の責任は重い、本当に解決すべき問題は、偏見に満ちたこの社会に生きる人の心だ。

ただ、偏見は「こんなにひどいことがあったんです」と知らせるだけではなくならない。身近な問題として呈示されてはじめて、人は認識を改める。その認識がアリのように広がり、社会全体の認識になったとき、問題は社会に還元され吸収されたといえるのだ。

ハンセン病問題のように長い歴史を持つ差別問題の場合、特に地道な活動が重要となる。大多数が療養所内に住む元患者さんたちと外部との交流をすすめること、ひとりの人間と人間として関係を築いていくことは、大変だがもっとも大切なことだ。

それと共に、もっと注目されて良いと思われるのが、芝居や音楽・美術などの文化支援活動。素晴らしい表現は、人の心を動かすものだから。心が動けば、人はテーマを身近に感じる。認識を改める糸口を得るのだ。

結純子さんのこの芝居「地面の底がぬけたんです」は、きっと多くの人の心を動かし続けて行くでしょう。その一翼を担えたことを感謝します。

そして、内とか外とかいう概念があらゆる意味で壊れることを祈りつつ、文を結びたいと思います。

◎笠原彦

ひとり芝居、今後の日程

ＦＷＣ関東の主催で行なわれるひとり芝居は5月31日ですが、今後も各地で公演されます。ぜひご覧下さい。

◎東京音楽文化センター

日にち／場所／主催

5月25日 奈良市遺跡文化センター

(人権啓発センター)

6月14日 岡山県こつみよう会館

(邑久光明園自治会)

6月15日 鳥取県智頭町総合センター

(ピースサミット21)

6月16日 兵庫県夢前町中央公民館

ホール(夢前町教育委員会)

8月23日 兵庫県山崎町文化会館

(山崎町教育委員会)

9月6日 練馬文化センター

(塚本グループ)

10月8日 山崎町文化会館

(兵庫県一宮町教育委員会)

11月4日 鳥取県松江県民会館

(野津恵子グループ)

11月17日 愛媛県五十鈴中央公民館

(五十鈴中央公民館)

12月1日 兵庫県伊丹中央公民館

(伊丹中央公民館)



8月初旬2週間

キャンプ地：韓国全羅北道イクサン村
か全羅南道ヨンアン村

ワーク内容：家の補修、下水工事、草刈りなどを予定

参加費：30000円(渡航費別)

2002年度韓国キャンプ総リダーを務めます東京農業大学3年、佐藤正明です。私は昨年、2001年の韓国キャンプからＦＷＣの活動に参加しました。

現在、韓国キャンプは日本のＦＷＣメンバーと韓国側、韓国外国語大学日本語学科の奉仕活動サークル「ハナ会(ハナフェ)」のメンバーとが共同でキャンプを企画運営するという方法で行っていて、主な活動内容は韓国内のハンセン病患者の定着村にて援農作業、施設補修、村民との交流などとなっています。韓国のハンセン病回復者定着村を取り巻く環境は物理的には十分に整備されていますが、やはり古くからの差別偏見から周辺集落から社会的に隔離された状況が残っています。

私達の活動を通して、単なる労働奉仕でなく社会的な環境の改善、差別偏見の撲滅に向けて前進してゆくことも、活動目標の一つとしています。ここ数年の間、韓国キャンプはＦＷＣ(日本)からの参加者が少なくハナ会を中心に行われてきました。しかし、昨年のキャンプには日本からの学生20数名が参加し、久しぶりに活気のある、韓日合同のキャンプとなりました。この復活は前・総リダーである松本譲氏の努力と情熱によったものでした。今年度、復活2年目となる2002年度韓国キャンプをハナ会と協議を進めながら現在企画をしています。ハンセン病を取り巻く環境の改善、韓日のより一層の相互理解、参加するメンバー自身の自己実現などを目標としながら、今年度の韓国キャンプを進めていきたいと思っています。

◎佐藤正明





8月6日〜20日までの2週間（予定）
キャンプ地：レイテ島アルベラ市サ
ンペドロ・カリガタナン地区
ワーク内容：トイレ及び井戸作り

下見報告

2月1日から15日までの2週間、フィ
リピン・レイテ島においてキャンプ下
見を行った。

ワーク地はオルモックからバスで約
20分行ったクロッシングから、山のほ
うへ約1キロ入ったところにあるカリ
ガタナンの小学校。小学校には使用で
きるトイレが一つもなく、更には学校
の周りに集落がないためトイレに関し
て大変不自由思いをしているとの事で
あった。実際、私も小学校を訪れた際、
お腹が痛くなって近くの家のトイレま
で400メートル歩いた。（死ぬかと思
った・・・）また生活用水の不足とい
う問題も抱えており井戸の必要性を訴
えられた。キャンプ地を探している中
でよく「カリガタナン＝貧しい地区」
という噂、話をよく耳にした。実際

訪れてみて集落や人々の様子からもこ
れまで私達が訪れた他の地域とは違っ
た貧しい雰囲気を感じた。宿泊場所に
ついてはカリガタナン地区での宿泊も
考えたが、治安という面を大きく考慮
し同地区から約15キロ離れた国道沿い
の海に面した地区のサンペドロBRG
キャンプ地のお宅に決定した。キャプ
テン宅の離れを2つ貸してもらい片方
を男、もう片方を女で使う。

◎佐野一矢（ワークリーダー）

今年の フィリピンキャンプ計画

今年から日下渉君が現地駐在員として
フィリピンに滞在しています。スタッ
フと現地駐在員がメールを使って互い
に意見・情報を交換し合い、より一層
可能性を秘めたキャンプへの実現に向
け動き始めています。以下は下見中に
日下渉さんをふまえてのミーティング
や、日本でのスタッフミーティングを
何度か行ったものの中での原案です。

1 「募集の時期を早める」

現在すでにピラが出来上がり、各大学
への張り出しをすすめています。

（効果a）日本人同士がキャンプ前に
仲良くなっておけば、現地ではもっと
現地の人とも仲良くなれる。

普通に考えて、フィリピンでできた友
達が日本人だけというのはいささか問

題ありだと思う。募集時期を早めるこ
とで、フィリピンで日本人同士が初め
て友達になるという無駄な過程を省け
ば、現地の人との交流により重点を移
すことができる。

また、それぞれの意見や不満を遠慮せ
ず言いやすいになれる。これは、より
深みのあるキャンプへの実現としてい
い資源となる。

リピーターとのズレも埋め易くなる。

初めて行く人、初めて行く場所、誰
でも最初はわからないものである。コ
ミュニケーション一つをとっても勝手
が分からないことはかり。しかし、そ
こは日本人同士の助け合いがスムーズ
にいくことによって不安は少しでも減
るであろう。

（効果b）時間をかけてミーティング
や勉強会を重ねていくことで、キャン
パーの意識、知識、技術などを事前に
より高めることができるようになる。

2 「キャンプのコンセプトを文章で表し、
それをみんなで共有できるものにしていく」
スタッフのヴィジョンを、スタッフ間
だけの暗黙の了解にしておくのではな
く、キャッチフレーズ的に表してみる。

例えば、「早い、安い、うまい」みた
いに。こうしたコンセプトに対してス
タッフ以外から不満が出れば修正し
ていけばよい。いずれにしても、スタッ
フがキャンプにかける意気込みを、他
のメンバーに対してもぶつけてみる機
会があることは大切だと思う。

キャンプに参加する人には、それぞれ
の理由や目的があるのは当たり前だけ
ど、最低限の「最小公約数」的な共通
の了解事項をつくりだすことはできる
はず。これが、キャンパーみんなで共
有できるキャンプのコンセプトになれ
ばいいと思う。

（効果）スタッフに連れていってもら
おうというのではなく、キャンパー
一人一人の責任感、意識を高めること
ができる。組織・集団としての質が格段
に向上する。

3 「フレンドシップのための芸をみがく」
フィリピン人の特性は豊かな感受性だ
と思う。言葉が通じなくとも、心は通
じる。ワークももちろんのことだが、
心が通い合う手段は他にもあるはずで
ある。

例えば、歌、踊り、バスケ、楽器演奏
から始まって、お年寄りへのマッサ
ージや、子供相手のゲームなどなど。考
え付くのはいくらでもある。それらを
一人でもいいし、グループでもいいか
ら練習しておく。合い言葉は「一人一
芸」。

（効果）初めての日本人でも現地に溶
け込むことがずっと容易になる。フレ
ンドシップが促進される。そして、と
にかく現地の人に喜んでもらえる。ま
た、アカペラグループ、ダンスグルー
プ、チンドンバンドなど、グループを
作って練習すれば、日本人同士もず
っと仲良くなれる。

4 「日本人主催の企画をする」

以前に「フィエスタ」なるものがあっ
た。しかし、一旦は没案になったらし
いのだが、その理由を聞くところによ
ると、以前の「フィエスタ」の欠点は、
その名前の「デカさの割りにチャチなこ
と。フリードリンク、フリーフードな
んで大した食数を準備できないし、日
本食だってあんまり食べてくれない。
ダンスなんか音響がヘボすぎる。だ
いたい「フィエスタ」の名前が良く
ないと思う。結局、村人を期待させず
て、裏切ることになるのが、非常に悔
しいと思う、ということである。

しかし、「フィエスタ」の欠点を見直
した上で、何か企画をすることは決し
て悪くないと思う。なぜなら、今回の
ワーク地は、滞在地とも離れている。
両者を結ぶものがあれば、より多く
の人々とフレンドシップが実現でき
る。初めて行く日本人にとっても、き
かけになる。子供相手の運動会や、若
者相手のバスケ大会、夜は本物の音響・
照明システムを借りて（5000ペソ
くらいでできる）ディスコパーティー
を行うとかは全然実行可能だと思う。

（効果）基本的に暇な村人に喜んで
もらえる。ダンスパーティーなどを実
現できたら、すごい喜ばれると思う。踊
るのが大好きな人たちが。現地からの
感謝を期待するのではなく、こちらが
感謝するのが当然。村に受けていれて
もらって、さんざん親切にしてもらっ
て、ただで酒やメシをおごってもらっ

て、チャホヤして気持ちよくしてもらって、いい体験させてもらって、キャンプを支えてもらっているんだから。こっちが感謝する機会を設けるのも大切。

以上が、過去のキャンプの反省点をふまえたうえでの計画である。

私個人、フィリピン人の気質は半端なく好きである。彼らも私のことが大好きである。今回参加する人たちに、より多くの人たちにその機会を持つてもらいたいのが心情である。

今日本にいる間でも、彼らのことが気になって気になって仕方ない。お互いにイマジネーションを持つことで、その「フレンドシップ」に近づく気がする。そして、言うまでもないが、国を超え、宗教を超え、多くのものを超えた上で成り立つ関係を築くことは、多くの可能性を秘めていることだと思ふ。

可能性を信じること。そしてそれを実現に向けて動くことは、私達に託されていることではなからうか。

◎田中裕也（総リーダー）

現地駐在員情報

この前、ティナガンの森の中でライブ録音したビサヤン・ソング・テープ、DILKA USBAND（二度と聞きたくないという意味らしい）による「トゥバ

の宴」が手元にあります。これを自分一人のものにしておくのはもったいないので、欲しい人がいたら一本5000+気持円で買いませんか？ 売り上げは全てフィリピンのミュージシャンたちの手元に渡るようにします。リードボーカルは、ベリオの息子のジョニオール、二口、二口の弟のフリオです。またベリオも唄ってますが、下痢で体調が悪く、リードはあまりとっていません。ギターリストはインゴットで、森の中の一のギター弾きです。トゥバの摂取量が増えるにつれて唄がややしくなるのは仕方ないけど、特に初めのうちはなかなかのものですよ。森の中の雰囲気が好きなお人にも涙ものでしょう。これでみなさんも、ビサヤンミュージック・マニアになれます。フィリピンキャンプに参加したことのない方も、是非聞いてみてください。

また、セカンド・アルバムのリコーディングも予定していて、こちらの予約も行っています。値段は、同じく5000+気持円です。次回はより大人数のバンドにする予定で、ベリオのベースギター、ロクロクの笑えないギャグ、鍋やポリタンクを叩くドラマーなどもフィーチャーするつもりです。こちらでも期待しててください。どちらのテープも6月くらいまでには、手元に渡るようにしたいと思っています。

◎日下渉



唐突かもしれませんが、私たちは現地の人々とのようにつきあっていくべきなのではないか。どのような関係を創っていったらいいのでしょうか。この問題に関して、私なりに考えてきたことを少々書かせて頂きます。

私としては、「善意のボランティアが、かわいそうなお人々を助けてあげる」といった上から見下ろしたような形でのつきあい方は受け入れ難いです。また、「貧しい方が人間はやさしくなる」などと、貧困を安易に美化し、「日本人みたいな生活を送るよりも、あなたたちはそのままの方が幸せなんだよ」という態度で、私たちの間に存在する明白な矛盾を黙認するようなつきあいも避けたいと思います。

そうではなく、おそらく大切なのは、現地の人々を、貧困を始めとした困難な諸問題に対して共に向かい合い、新たな未来を切り開いていくための対等なパートナーとして認識し、つきあっていくことであると思います。また、そうした協力関係を創っていくために必要なのは、現地の人々が自ら社会に関与していくこととする「主体性」、そしてそうした主体性を支える人々の「価値」や「誇り」といったものを理解しようとする努力し、人間として共感していくことではないでしょうか。これは、人間社会に存在する様々な差異、そして不平

等を徹底的に直視しながら、現地の人々と私たちの間に何らかの共通性を見出し、共感によって人と人がつながっていく可能性を模索していくことです。

こうした私自身の問題意識から、この勉強会では、みなさんがフィリピンやそこに住む人々を理解していくにあたって、いくらかの手助けをできればと願っています。具体的には2点ありまして、まず、「未来に向けた可能性としてのフィリピン」と題して、貧困、売春、危険、腐敗などといった負のイメージにまみれたフィリピン観とはまた別の見方を提示してみたいです。そして次には、「フィリピンの人々は何を大切に生きてきているのだろうか？」という題で、現地の人々が生きていく上で大切にしていると思われる価値を、アウトサイダーたる自分が代弁する僭越さを恥じつつ、いくつか紹介してみたいと思っています。この2点を、数回に分け、メールで配信してみたいと思います。今回はその1回目です。私たちと現地の人々の相互理解に少しでも役立てれば幸いです。

1. 未来への希望と共感に基づく可能性の共同性

「フィリピン人」とは何者か？ 一見簡単そうな問いですが、これを定義するのはなかなか難しく、フィリピンの知識層では論争を繰り広げられてきました。何故ならば、共通の文化や偉大な過去にそのアイデンティティを見出すのが困難だからです。歴史を振り返れば、現在のフィリピン諸島とは、スペインの支配によって初めて切り取られ地域であり、その名も時のスペイン王子フェリペ二世にちなんでつけられたものです。スペイン以前には何の統一王朝も存在せず、南部のイスラム地域を除けば、ほとんどの地域でバランガイ（村

単位での生活が営まれていたに過ぎませんでした。また、そもそも「フィリピン人」とは、フィリピン諸島出身のスペイン人を指す言葉であって、原住民は「インディオ」と呼ばれるにすぎなかったのです。

さらにフィリピンでは、過去だけではなく、共通文化によってアイデンティティを求めることも困難です。国土は7000以上の島々に分断されて、100近くともいわれる多様な言語、民族集団を内包しているし、スペイン、アメリカ、日本といった植民者の文化的支配に長らく侵されてきたために、真にオリジナルなフィリピン文化というものを主張するのも難しいからです。

そのため、過去に「フィリピン人」概念の根源を求めることは難しいのです。また、殖民地化された過去は否定したいけれども、もはやキリスト教や英語を捨て去ることもできません。そのため、フィリピンは、耐え難い苦痛を持って現状を受け入れ、未来に向かって走り続けるしかないのです。すなわち、現在のフィリピンは、殖民地主義に本来の発展を歪められた不意な仮の姿であって、未来への企ての中にこそ真のフィリピンが姿を現すのだと考えられているのだというのです。例えば、かつてフィリピンを代表した歴史家・思想家のレナト・コンスタンティノは、マルコス独裁政権の対米従属的な性格を念頭に置き、「今日の社会状況が要求する真のフィリピン人とは、殖民地化を排し、独立を求めるという意識をもったたかっている人である」と主張しました。つまり、抑圧をはねのけようとする、民衆の未来に向けた闘争の中にこそ、ナショナル・アイデンティティを見出していくことが試みでした。このような明日の社会は自分たちで創るんだ」という認識は、広く共有されていると考えられます。このことは、例えば、フィリピンで非常に盛んな市民社会論や、世界でも有

数の活発なNGO活動、あるいは2度も大統領を追放したビブル・パワーから理解できることと思います。また、コンスタンティンという闘争(struggle)という点は抜きにしても、未来にこそ真のフィリピン人があるのだという考えが一般的に共有されていることは、ワークキャンプでお世話になっている小学校教師のティータやノグノグが、ナショナル・アイデンティティを問われ、口を揃えて「We are making Filipino」と答えたことから分かるのではないだろうか。

未来への希求に加え、フィリピンの共同性を成り立たせているもう一つの重要な要素は、「共感」です。フィリピンは国民統合という観点からではあまり成功しておらず、フィリピン人であることを意識せずに暮らしている人が多いと言われてきています。しかし、例えば、マルコスの最大の政敵ベニグノ・アキノがマルコス派に暗殺されたり、シンガポールやアラブ首長国連邦への出稼ぎメイドが冤罪の疑いがあったり、あるいは正当防衛での殺人であったのに関わらず死刑判決を受けたりすると、突如「想像の共同体」が人々の意識上で形成されたといわれています。つまり、階級、地域、宗教を超えて国中で「それはあんまりだ」「かわいそうだ」という共感と共苦が、被害者への深い感情移入と共に広範に巻き起こり、「我々フィリピン人」意識が高揚したりするのです。そもそも、フィリピン革命も、スペインに処刑されたホセ・リサルへの深い感情移入と怒りから、我々フィリピン人意識が高揚し、国中を巻き込んだ抵抗運動に発展したのだと言われています。また、アキノの暗殺に対する共苦も、マルコスを追放したビブル・パワーに展開していききました。このような共感に基づく共同性も、フィリピン・ナショナルリティの特徴の一つといえましょう。

このように過去や単一文化ではなく、「未

来への希求」と「共感」に基づく共同性、ナ

ショナルリズムのあり方は、「万世一系」や「単一民族」に根拠を得ようとする日本のナショナルリズムと比較すれば、その特異さが際立つことと思います。そして、ここが私の一番こだわることなのですが、過去や「固有な」文化に閉ざすのではなく、未来と共感に向けて大きく開口を広げた共同性は、偏狭で排他的なナショナルリズムや民族主義に墮落しない共同性の可能性を提示しているのではないのでしょうか。例えば、ティナガン(キャンプ地の村)の二口とジョニオールは、やはり私にナショナル・アイデンティティを問われ、何と「それは外国人に優しくすることだ」と答えて、私を驚愕させたことがあります。確かに、外国人である私へのリップ・サービスであったかも知れませんが、また外国人によるフィリピン人のステロタイプのイメージを単に繰り返しているだけかも知れませんが、しかしそれにも関わらず、私たち日本人が、日本人のアイデンティティを問われ、それは外国人に優しくすることだなんて果たして即答できまじょうか。このような一切の排他性をまとわないナショナルリズムが、たとえ認識上だけであったとしても存在するというところに、度肝を抜かれたのです。

固有で純粋な過去や文化という神話に規定されない共同性のあり方は、偏狭なナショナルリズム、民族主義を超える可能性を秘めているように思います。そして、これを実現するために必要なのは、私たちの想像力による共感であると考えます。現状を変えていく可能性は、まさにごく普通の学生、おばちゃん、おじちゃんたちが想像力によってつながっていくことにこそあると僕は信じているのです。想像力を使って国境を飛び越え、仲間を増やしていくこと。仲間の安否には誰でも気を遣うから、これは無関心を減らし、関心の対象を広げていくことになると思うから

です。

他者の窮状に対して無関心であるか、関心を持つかは、私たちの共同性の概念に大きく関係しています。私たちが頭の中でどのような共同体を想定しているかによって、関心の対象は変わってくるのです。例えば、一般的な日本人にありがちな傾向として、国内の事件の被害者の悲しみは非常に身近に感じられるけれども、パレスチナやアフガニスタンの悲しみにはずぐ鈍感にしか感じられない人たちがいると思います。だけれども、ワークキャンプに参加したりすると、自分の関心の対象が広がっていることに気がつくことがしばしばあると思います。これは、今までは関心の対象外であった人々が、キャンプで身近な友人ができたりにすることによって、その人々が自分の仲間意識内に組み込まれたことを意味しているといえるでしょう。

つまり、私たちは「日本人」などという共同性を当たり前で不変のものとして考えてしまいがちですが、人間の共同性の概念は、想像力によっていくらかでも変わりうるのです。そもそも、日本人全員に会う事なんて不可能なのだから、「日本人」という共同性だって、想像上の産物に過ぎないじゃないですか。一昔前までは、薩摩人と長州人は、別の国の人であつたわけだし。だからこそ、新たな共同体を想像していくこともできるのだというのです。

それでは具体的にどのような想像力によって、新たな共同性を創り出していくことができるのかといえは、それは「想つ」ということによつてだと思っています。例えば、アフガンの爆弾の下を想つ。フィリピンの貧困を想つ。ハンセン病で差別を強いられた人々の生活を想つ。想つにあたって、戦争や、飢えや、ハンセン病を実際に経験することは、必ずしも必要ではないと思います。実際に経験した人ではないとその体験を理解できないというのは、経験絶対主義に陥り、人と人をつなげていかないからです。

では、経験絶対主義に陥り、人と人をつなげていかないからです。

しかし、そんな安易に他者の悲しみを理解できるといのは、とてもない傲慢であるとの批判も多いでしょう。その反論は、まさにその通りだと思っています。あなたは私の悲しみを最終的には理解できない。これはまったく正しいと思います。安易に他者を分かった気になつてしまふことには、大きな落とし穴がついてまわると思います。現実の犯罪的な不平等な構造に目を閉ざしたままで、安易に「人類みな兄弟」と言うことは、抑圧、貧困、差別などといった人と人の間に存在する様々な不平等を隠蔽することになつてしまふからです。

だけれども、むしろ大切なのは、他者を理解することの困難、危険、不可能性を強調することではなく、むしろ私たちの平凡な日常生活を、想像力によって彼ら／彼女らの生活につなげようとしていく努力であり、その共感の過程から現実の不平等を問いただす発想だと思っています。それは例えば、想像力によって私たちが恋人を失う悲しみを、アフガンの人が空爆によって恋人を殺される悲しみに重ねあわせ、人間の命の価値に差がつけられる現実の国際政治のあり方を糾弾するような発想です。それは、自分の日常からでは遙か遠くに思われるアフガンの空爆による被害者の悲しみを、結局は理解できないとするのではなく、「そんなこといちいち言わないでも、分かるよ」といった感覚で抱きとめるような想像力です。だつて、愛する者を失う悲しみを、いちいち他人に教えてもらわなければ理解できないという人がいますか。そうすると、経験の有無は他者の理解にそれほど障害ではなくなると思ふのです。

李静和などという人は、日本の女子高生が失恋する悲しみを、元従軍慰安婦のハルモニ(おばあさん)たちの悲しみとあえて区別しない

とまで言っています。ハルモニたちのつらすぎて言えない悲しみを、無理やりみんなの前で言わせて、それを自分とは全く別世界の悲しみとして捉えるのが、歴史の証言という仕組みであるならば、そうした証言よりも「そんなの分かるかつたら、いちいち言わないでもいいじゃないか」という考えの方に可能性を見出すのです。もちろん、安易に日本の女子高生とハルモニの悲しみを同列に語ることは明らかに危険があるでしょう。しかし私は、他者への共感や関心があつてこそ、現実の不平等を問いたしていく考えが人の中に生まれるのではないかと思っています。いづれにせよ、私はこうした「想つ」ことによって国境線を超えてつながる共同性というものを信じていきたいのです。

さて、少し話が飛躍してしまいましたが、フィリピンをこういふ視点から見ると、いろいろ面白いアイデアを得るきっかけになるのではないかと思ひ、この文章を書いてみました。楽観的すぎるという批判もあるでしょう。もちろん、私が述べてきたような共同性がフィリピンに実現されているとは言えない面もあります。国家によるナショナルリズム教育や排他性も確かに存在します。しかし、フィリピンの欠点をあげつらうのは簡単ですが、むしろ私はフィリピンからその可能性を学んでいきたいと思っています。

異論、反論、質問、感想など、待っています。

(参考文献)

「想像の共同体」 増補版 N・T出版、フィリピン人メイト処刑事件の意味するもの：ASEAN外交における「国民」の登場、「総合的地域研究」、フィリピン民衆の歴史、井村文化事業社、「フィリピン・ナショナルリズム論上・下」、井村文化事業社、「文化のなかの政治」弘文堂、「植民地支配の歴史を超えて：未来への投企としてのフィリピン・ナショナルリズム考」、「アジアの多文化社会と国民国家」、つばき政治思想求められたものへの「青土社

文責：日下歩



2001年度収支報告

収入	
前年度繰越	183,420
年会費 (45 名分)	135,000
カンパ	111,500
一人芝居カンパ	10,000
フィリピン駐在員カンパ	25,000
収入総計	464,920
支出	
印刷費	7,710
文具代	10,030
郵送費	132,000
一人芝居プロジェクトに貸出 (会場手付金)	77,175
交通費	320
雑費	4,675
支出総計	231,948
総収入ー総支出	
	232,972

宮本郁子、浜島恭子、木村仁、西尾建人、鈴木由美、野本聡美、内田美智子、荒川龍一、草柳理沙
以上、敬称略。3月31日現在
会計報告の欄でも書いたとおり、カンパ内訳は下記のとおりです。

一人芝居カンパ	10,000
フィリピン現地駐在員カンパ	25,000
使途定めず	111,500

使途が指定のないカンパの使い道(案)使途を定めないカンパを11万1500円も頂いてしまいました。使

い道の案としては、1フィリピンの現地駐在員の必要経費に充てる、2今後何らかのプロジェクトのための準備費用としてプールしておく、3次回夏キャンプが開催されるまで大金の年会費収入が見込めないため、場合によっては

カンパ状況
前回の定例会報告にてカンパ・年会費のお願いをしたところ次の方からカンパ、年会費を頂きました。どうもありがとうございます。

カンパ：和田昭子、南井弘次、小河原英貴、川田茂子、平野敏彦、後藤角充、巽重雄、稲葉充利、野渡直樹、坂井領、株藪真紀、鈴木由美、木村聖哉、奥村田起正、加島宏、森岡律子、君塚隆太、鳥山和義、野本聡美、福島晴雄、内田美智子、森元美代治
年会費：井木澤穂、君塚隆太、尾形修一、南井弘次、小河原英貴、竹村晃子、

定例会報告の発送費が少し足りなくなる恐れもあるので、そのための費用にすこし充てる。などが考えられます。使い道の最終決定は次回の定例会(5月11日)でみんなの意見をきいて決めますが、定例会に来られないけど、なにかいい案があるという人は、西尾まで連絡してください。

◎西尾雄志

F-WC 関東委員会の年会費

年会費は3000円です。年会費の振込みは以下のどちらかの口座にお願い

します。

※領収証の発行を希望される方は、その旨お知らせください。

○郵便振替 □座番号 00170-2-565117

加入者名：F-WC 関東委員会

○郵便貯金 記号 10120 番号 62574261

□座名義：F-WC 関東委員会

むすび新聞会計より

昨年5月に発行しました「むすび新聞」(号外)の収支報告です。

印刷や郵送の費用にあてるため、カンパをお願いしたところ、多くの方から賛同いただきました。なお、残金は今年中にもう1度発行できれば、その費用に当てさせていただきたいと思えます。それができなかった場合は、交流の家の会計に送ります。

◎茂木亮

収入	
カンパ	160,000
郵送費 (関東委員負担分)	21,600
収入総計	181,600
支出	
印刷費	57,150
郵送費	57,690
写真代	6,262
封筒	2,202
支出総計	123,304
残金	
	58,296

印刷：オフセット 800 部、リソグラフ 400 部

カンパしてくださった方 (敬称略)

岸野春子、小田弥一、井上浩孝、辻征雄、野浩一、高門亮子、石井雅子、平野敏彦、弘美、土子隆輝、西尾建人、原康雄、湯浅進、桜井清栄、山川千秋、佐藤里香、谷本幸司、辺直子、浜島恭子、服部雅行、笠原彦、目黒美穂子、木村聖

哉、岡本義治・響子、川本了造、五十嵐昭夫、北島博久、鈴木孝三・ムツミ、井木沢稔、坂口一、平川弘二、寄田猛、小谷収永・佳子、今田恵里子、山本剛、福田恵子、田中陽子、高崎真介
どうもありがとうございました。



定例委員会報告 2002年4月号
2002年4月27日発行

フレンズ国際労働キャンプ(F-WC) 関東委員会
委員長 西尾雄志

編集：茂木亮 (茂木新聞社)
題字、見出し、イラスト：目黒美穂子
イラスト (中国・ネパール・韓国報告の挿絵)：宮本久美子

編集協力：菅野太郎 (Taro's Press)

PDF版では、個人の連絡先を掲載していません。必要な場合は次の宛先までメールにてお問い合わせください。

PDF版制作：茂木亮
mog@mognet.org

www.mognet.org

こんなところに
定例会報告
バックナンバーが!!

モグネットに掲載したい
ワークキャンプの写真は
web@mognet.org まで

Jimen 情報はココをクリック!

目黒鍼療院

JR中野駅 宮田地下鉄丸ノ内線 新中野駅 中野新橋入口 消防署 新宿 中野新橋 中野スカイマンション1階 ココ 鍋屋横町 交差点 東京三菱 新中野駅 新中野駅下車徒歩3分 青梅街道 高円寺 中野新橋

東京都中野区本町4丁目5-14 phone 03-3381-9381

定例会はメグシンで
はり治療もメグシンで

月～金：9:30～17:30
土：9:30～16:30
日・祝：お休み

